

# とびひ（伝染性膿痂疹）

2022. 8. 1

ジクジクしてかゆみの強い水疱が次々とできる病気です。

鼻の入り口や皮膚にいる細菌（黄色ブドウ球菌など）が感染して起こります。特に鼻の入り口には原因の細菌が沢山いるので鼻をいじらないようにしましょう。

夏場は肌の露出による虫刺されや傷などの皮膚トラブルが多く、そこに菌が感染して水疱ができます。感染力も強く水疱やびらんからの滲出液が付着すると広がります。

## 『治療』

抗菌薬の軟膏を塗り、極力触らないようにします。

軽い場合は塗り薬で済みますが、滲出液を伴う場合、症状が広い場合は抗菌薬の内服を併用します。

## 『ケア』

とびひは「患部の清潔を保ち、保護を徹底する」と治りが早くなります。

密封性の高い絆創膏（キズパワーパッド）などで覆うと、蒸れて細菌が繁殖しやすく治りが遅くなります。どうしても触ってしまう場合はガーゼや通気性のよいもので保護し、1日2～3回ガーゼを交換することで蒸れを防止し、患部の保護を優先しましょう。

患部に泡立てた石けんをつけ、シャワーで洗い流すことが大切です。1日3回流すと、患部の細菌は確実に減らすことができます。

ほかの人にうつるのを避けるため、タオルの共有は控えましょう。

## ☆スキンケアで予防

子どもの爪は短く切っておき、入浴やシャワーで皮膚の清潔と保湿クリームやローションなどを使用し良い状態の肌を保っておきましょう。

参考文献 厚生労働省 HP